



飯山・飯盛山の河津桜
(撮影：小林会員)

令和8年3月号 Vol. 263
(2026年)

発行：令和8年3月8日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <https://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス atugikanvola@yahoo.co.jp

発行責任者 会長 田頭 文昭 編集担当者 澤田 正弘

《冬季入込観光客調査》

行事区分：行事支援

日時：2月1日(日) 9:00~16:00

場所：厚木市内5拠点

参加者：10名

七沢温泉(七扇駐車場)

今年最初の入込調査は、立春まじかの2月1日でした。寒さを予想して、スキーに行くような服で行きましたが幸いな事に、当日は梅もちらほら、個人宅のろうばいも咲いています。日曜なので、七沢の里陽だまり散歩日和です。

ここ、「七扇」前の道は思ったより、車の往来が多いのが印象的でした。薬師林道へつながるので、日向薬師へ行くハイカーと帰りのハイカー、七沢観音詣り、昼食付旅館利用者、七沢荘の日帰り入浴客、クロスツリーアドベンチャー厚木へ行く若者でした。車のカウントは結構大変ですが、ハイカーはあまり通りません。なかなか、アンケートも取れず、ハイキングの案内もあまりありませんでした。

調査場所の隣宅の方から、ねぎらわれました。観ボラのハイキングによく参加している方で、アドバイス、色々な情報を頂きました。この方は、自発的に七沢の仮設トイレ他諸施設の清掃、ヤマビル対策グッズ等点検しているようで、まさに、地元を愛する人で頭がさがります。

七扇さんに協力頂いて調査していますが、ここに来るお客さまは、市外が多い様です。高級感、差別化を図り富裕層が対象なのでしょう。高級外車をみかけます。厚木の温泉がもっと有名になる様、観ボラもタイアップして何か企画できればと思いました。

(石川 記)



七沢森林公園（出会いの広場）

大寒から10日余り、一年で最も寒い時期なので、それなりに防寒対策をして調査に臨んだつもりでしたが、石畳から登って来る冷気は想像以上、頼りになる日の光も、調査場所では目の前の大山広場に続く小高い丘に遮られ、なかなかその恵みにあずかることができません。それでも、10時を過ぎる頃、やっと太陽が顔を出しホッと一息。朝の寒さが少し和らいだその頃には、人出も徐々に増え始め、最終的な人の出は、この場所が調査常連の相棒によれば、昨年秋の調査人数と同じかそれより少し多い来訪者があったようです。

ここには森の里などの近隣の方が、散歩やランニングで来られることが多いようです。特に犬の散歩に利用する方は大変多く、入込調査の項目に「犬」も入れたらどうかと思うほどでした。その犬達は、それぞれが思い思いの服や飾りを身に着けていて、座って見ている私にとっては、まるで「犬のファッションショー」のようです。中には、飾りなのか、拾い食い予防のためなのか分かりませんが、アヒルのくちばしのような物で口全体を覆った犬もいて、その愛らしいしぐさに思わず微笑んでしまいました。犬にとって良いのか悪いのか分かりませんが、少なくとも、私の子供の頃とは犬の役割も、人と犬との関係もだいぶ変わったような気がします。



そう言えば今回は、意外な訪問者にも驚かされました。調査場所の右上にかかる「森のかけはし」の往来も、調査対象でカウントするのですが、調査場所から見ると、橋の上を通る人々は欄干によって肩から下は見えにくく、端の方は、木々の梢が視界を邪魔します。そんな梢の中、頭を上げたり下げたり、少しおかしな動きをしながら渡っていく人を見かけました。何故だろうと、注視していると、梢が途切れ視界が良くなった場所に差し掛かった時、その正体が分かってびっくり。今まで人だと思って見ていたのは、何と欄干の上を歩く「猿」でした。「人だと思ってカウントしちゃった！」との声に2人で大笑い、でも梢越しに見えた姿は本当に人間そっくり、暫く笑いが止まりませんでした。

少し近づいてみると、橋を渡り終えた猿は2匹いて、日向ぼっこでもするように斜面の陽だまりに座り込んでいました。歩道から「森のかけはし」へと階段を登る人達もいましたので、暫くの間、猿がいるので注意するよう声をかけていましたが、2匹の猿はいつの間にか姿が見えなくなっていました。

昼間は多くの人が行き来した出会いの広場も、午後3時を過ぎる頃になると人影は殆ど無くなり、石畳に長く伸びた木々の影が、まるで夕闇が近い事を告げているようでした。今回の入込調査は、寒さに耐える調査でしたが、笑いあり驚きありで、結構楽しい一日を過ごすことができました。（根岸 記）

《 訪問ガイド研修「大山道の終結地と道灌ゆかりの里」 》

行事区分：訪問ガイド研修

（かながわガイド協議会、担当：いせはら観光ボランティアガイド&ウォーク協会）

日 時：2月15日（日）9：00～12：00

コース概略：伊勢原駅北口（集合）～シティプラザ～伊勢原大神宮～山口家住宅～
二の鳥居～洞昌院～帰りの道標～石倉バス停（解散）

参加者：会員5名

2/15（日）開催の伊勢原訪問ガイド研修に参加してきましたので報告します。実は私は平塚の職場勤務時代の新婚時、伊勢原の社員アパートに3年程いたので、伊勢原には特別の愛着があります。我等あつぎ観ボラ参加会員は有志5人での参加でした。今回の参加者は合計53名と多く、我等は4班で15人のグループで3人のガイドが付きまして。戴いた資料は、A5判8ページの光沢のある用紙を使い、写真も綺麗に印刷されていました。

受付の後、本町の市役所跡地のパブリックスペースで、開会式が行われました。かながわガイド協議会の会長と伊勢原ガイド協会の会長の挨拶の後、大山登山安全祈願の納め太刀と白衣（びやくえ）の紹介があり、みなさんの記念写真に使ってくださいと言われ、我々もコースの途中の伊勢原大神宮で早速使わせて戴きました。



伊勢原大神宮前にて

今回のコースは田村通りから矢倉沢往還を経て青山通り（戸田道）に行く道でした。伊勢原には梅園があるとは聞いていましたが、今回立寄った山口家は国登録有形文化財で、伊勢原では最大級のお屋敷で母屋は立派な2階建ての入母屋で、納屋を含めて500坪は



二の鳥居

優にあるお屋敷でした。敷地内では手製の編み物、カバンなどがお土産として売られており、無料のたくあん、梅干し等のサービスがありました。私はたくあんでいただきましたが、美味しかったです。ここで一休みのあと、洞昌院へ向かいました。

今回のコースでの一番の見所はやはり太田道灌墓所のある洞昌院です。立派な正門から入り、素晴らしいお寺でしたが、肝心の太田道灌のお墓は、思ったより小さく両サイドにあった大木も根元から朽ちて、トタンのカバ

一帽子がかかっていました。最後は大山参詣を終えて帰る旅人を案内する道標に到着しましたが、工事用パイプでガードされているのは不自然でした。

今回のガイドの中で、2か所の定点ガイドがあり、参考になりました。この後はゴールの石倉バス停まで歩き、神奈中バスで伊勢原駅に到着しました。私の万歩計は約15000歩でしたが、私にとってはほぼ限界の歩程でした。5人で本厚木駅に戻り、ミロードの食堂で昼食と乾杯をして解散となりました。晴天に恵まれ大変有意義な一日でした。皆さん大変お世話様でした。

（山下武敏 記）



《 観音堂の意匠について 》

澤田 正弘

今月号では観音堂に付属する意匠について解説します。定点ガイドをする時に活用してください。

屋根頂点の装飾

宝形造りの観音堂の屋根を上から見ると正方形になっていて、東西南北の側面から見ると三角形の屋根が傾斜していて、その頂部は点になっています。その頂部に付いている装飾品は上から順に「宝珠」「伏鉢」「露盤」となっています。



「宝珠 (ほうじゆ)」 --- 上部先端が尖っていて、火焰を伴う玉のこと。如意輪観音が右手に乗せている如意宝珠と同じ物です。宝珠は仏教において「意のままに願いをかなえる宝」とされる珠 (たま) の事で、これを得るとどんな願いもかなうといわれています。

「伏鉢 (ふくばち)」 --- 鉢 (はち) を伏せた様な形になっていて、底が丸い宝珠が転げ落ちない様に支える構造になっています。

「露盤 (ろばん)」 --- 屋根の頂部から雨水が入らない様に、蓋の役目をしていて、伏鉢の台でもあるので上部は平らになっています。横面に建物内部の空気循環のための換気口を仕込む場合もあります。

組物 (くみもの)

日本の伝統的木造建築において、柱頭に設けられる部材の総称で、「斗 (ます)」と「肘木 (ひじき)」という部材を組み合わせて構成されています。「斗」は直方体で下部が斜めに削られた部材。(米を計る升の形に似ている)「肘木」は短い棒状の部材で下端が船の底の様に緩やかに削られている。



組物を設ける目的は 1) 重い屋根を支える 2) 軒を深くする 3) 柱と梁の接合強度を高める 4) 荷重を分散させる事で建物の耐久性を高める 5) 装飾としての意味合い等があります。

木鼻 (きはな)

木端 (きはし) とも言い木の端を意味します。柱の頂部に開けられた孔に、横架材の先端を貫通させた際に、その部材が外側に突き出るようになり、その部分に彫刻を施したのが木鼻の始まり。本来は切って捨てられる部材を彫刻して有効活用したもの。江戸時代になると、その彫刻が大きく装飾的になったため、開けられた孔より大きな彫刻物を反対側から取り付けられる様になりました。

彫刻の種類には握り拳鼻（にぎりこぶしばな）、象鼻、獅子鼻、獏鼻（ばくばな）、龍鼻などがあります。また禅宗様木鼻には渦紋、植物紋などがあります。昔の建物は横力をあまり考慮せずに柱だけで自立する構造であったため横架材は細かった様です。

飯山観音観音堂の正面右上の木鼻の彫刻は、東向きが獅子鼻、北向きが獏鼻とされます。



軒下の十二支（じゅうにし）

観音堂軒下の東西南北4面の蛙股（かえるまた）の中に十二支の彫刻があります。十二支は古代中国で用いられた周期的な記号体系です。飯山観音ではその方向にあわせて十二支の彫刻が施されています。方角は北を「子」、東を「卯」、南を「午」、西を「酉」とし、これらを基準に他の十二支が割り当てられています。北から右回りに子（ね）、丑（うし）、寅（とら）、卯（う）、辰（たつ）、巳（み）、午（うま）、未（ひつじ）、申（さる）、酉（とり）、戌（いぬ）、亥（い）となります。これは季節（1月から12月）や時刻（24時間）でも同じ配置になっています。また方角には中間の45度にあたる場所に、北東は：艮（うしとら）、南東は：巽（たつみ）、南西は：坤（ひつじさる）、北西は：乾（いぬい）があります。十二支の方角が用いられることで「子午線」や「午前」、「午後」といった言葉が生まれました。

下は観音堂軒下の彫刻の写真です。





最近の活動

日付	場所	内容	参加者
2月 9日	アミューあつぎ	臨時役員会	会員 8名
2月 14日	アミューあつぎ	「定例会」	会員 17名
2月 14日	アミューあつぎ	勉強会 「愛川町中津旧跡巡り」	会員 11名
2月 15日	伊勢原市	かながわガイド協議会・訪問カイド 「大山道の終結地と道灌ゆかりの里」	会員 5名
2月 22日	飯山観音	臨時定点ガイド ガイド先団体：「六つ星山の会」	会員 2名
3月 3日	森の里公民館	編集会議	会員 3名

編集後記

2月26日に松田町西平畑公園の河津桜を見に行ってきました。JR松田駅から臨時のシャトルバスで「まつだ桜まつり会場」に到着。外国人も含め大勢の観光客が来ていました。肝心の河津桜はすでに満開が過ぎて緑色の葉っぱがちらほら。今年の夏もまた猛暑になるのでしょうか。相模湾や富士山などの雄大な眺めを満喫する事が出来ました。

編集委員 小林 直樹 澤田 正弘 清田 邦男